

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	重度心身障害児者レスパイトケア施設、運営上の工夫
演者名	戸泉めぐみ 1)
所属	1) Orange Kids' Care Lab.

目的

重度心身障害児者レスパイトケア施設は、福祉系施設の位置づけながらも、医療的ケアへの対応が必要となる。また利用者はその障害の重度性から体調の変化が大きく、入院などによる急な利用停止も多くなることで、運営の維持自体も大きな課題となっている。

実践内容

連携しているクリニックとの協働により、人員の柔軟な配置を実験的に行った。

レスパイトケア施設の利用者の医療的ケアの必要度に応じて、看護師の配置数を変えたり、急な病状変化による利用中止者には、訪問看護でフォローしたりするなどして、利用者の体調管理・体調把握をしやすいすると共に、スタッフの効率的な配置を行った。

実践効果

スタッフの効率的な配置により、より柔軟に、スピード感を持って利用者を受け入れることができた。また、看護師は施設だけでなく在宅でも利用者のケアに当たることで、ケアの統一や質の維持にも繋がった。

考察

重度心身障害児者レスパイト施設では、医療的ケアが必要な利用者に対応するために看護師の配置が濃厚に必要である一方、急な体調変化で利用が中止になるなどして、人員配置が難しいという点がある。看護師を施設と在宅クリニックで柔軟に配置することで、この問題が解決できる可能性があった。それだけでなく、生活・在宅の延長ある施設では、在宅でのケアと施設のケアをお互いが把握できるというメリットも見られた。